

2008年10月1日



資料館通信 第61号

ふじみ野市立

上福岡歴史民俗資料館
大井郷土資料館

埼玉県ふじみ野市長宮1-2-11 TEL 049-261-6065
埼玉県ふじみ野市大井中央2-19-5 TEL 049-263-3111



明治44年 仙波河岸 (川越市)



大井氷川神社天王様の神輿

上福岡歴史民俗資料館 第23回特別展

「河岸場と河岸道～新河岸川舟運を中心に～」

を11月23日(日)まで開催

鉄道や道路が発達する以前、全国の河川は、物資輸送の手段として有効に活用され、川の沿岸には船着き場や船問屋をはじめとする店が集まり、「河岸場」が整備されました。さらに河岸場と周辺の村々との間には、「河岸道」とよばれる道がとおり、農作物や肥料をはじめ多くの荷物が行き来し、この地域の経済・産業の発展にもつながっていきました。そこで今回は、江戸時代から明治時代にかけて、物資輸送によって人々の生活や経済活動を支えてきた河岸場と河岸道に焦点をあて、河岸に関する実物資料と貴重な写真を一同に紹介します。

大井郷土資料館 特別展

「天王様—信仰とその民俗—」

会期 11月8日(土)～12月7日(日)

第23回特別展

河岸場と河岸道～新河岸川舟運を中心に～

平成20年9月27日(土)～11月23日(日)

- 主会場：上福岡歴史民俗資料館 1階展示堂及び2階展示ホール
第2会場：福岡河岸記念館<有料> (ふじみ野市福岡3-4-2)
- 開館時間：午前9時～午後4時30分 (福岡河岸記念館は午前10時～午後4時)

展示コーナー

I 河川の整備と舟運・河岸場の成立

天正18(1590)年に徳川家康が江戸に入府してから、関東の河川整備のために、文禄3(1594)年から60年間という長い時間をかけて、利根川の東流、荒川の西流という大工事を行いました。その結果、それまでばらばらだった河川が互いに結びつき、江戸と関東、奥州を結ぶ舟運路が構築されました。

川の沿岸には、領主の年貢米・御用物資等を輸送するため各所に河岸場が設置されました。元禄2～3(1689～90)年には、幕府廻米の運賃を制定するために、関東及び伊豆・駿河の国々を対象に河岸改が実施され、86ヶ所の河岸場が公認されました。このうち今回は、権現堂河岸(幸手市)と高尾河岸(北本市)に関する貴重な資料を紹介します。

II 新河岸川舟運の河岸場

新河岸川舟運は、寛永15(1638)年1月16日の川越大火で仙波東照宮が焼失したため、同年再建資材を江戸から川越まで運ぶのに内川(新河岸川)を利用して寺尾村(川越市)五反田の地まで運んだのが始まりといわれています。

新河岸川沿岸には、川越五河岸や古市場、引又など1600年代にできた古い河岸場に加え、福岡、鶉、水子など1700年代に経済の発展に伴って誕生する河岸場、百目木、仙波河岸など明治時代以降にできた河岸場など、いろいろな性格をもった河岸場が23ヶ所設けられました。ここでは、いくつかの河岸場に焦点をあて、関連する半纏や看板、印鑑、古文書などの資料や、古写真などを展示します。

III 福岡河岸と船問屋

福岡河岸は、享保18年(1733)に開設されたといわれています。明和8(1771)年頃から、公認の間屋株を設定し、運上金(売上金の何割かを上納させる)の増収による財政確保と舟運機構の再編を図るため、勘定奉行石谷清惟備後守による河岸吟味が実施され、安永2(1773)年に福岡河岸の半兵衛(吉野屋)・三之助(江戸屋)・門左衛門の3軒の船問屋が公認されました。吉野屋と江戸屋はその後も続きますが、天保2(1831)年に門左衛門の間屋株を、福田屋が借り受け、回漕業を始めました。

このコーナーでは、福岡河岸が幕府に公認されてから、新河岸川舟運が衰退し廃業に至るまでの流れを追ってみます。



高尾河岸の御用旗
(田島和生氏蔵)

IV 河岸道

農村から河岸に通ずる道を「河岸道」「河岸街道」と呼び、市内では三ヶ島街道も、福岡河岸・古市場河岸と所沢市三ヶ島、さらに東京都青梅市までつながる河岸道の1つで、多くの荷物が往来したと考えられます。

現在では、舟運が盛んだった頃の、荷物を運搬していたような面影はなくなり、改修等によって河岸道も変化してしまいました。今回、河岸道が描かれている絵図面や、道しるべなどの資料を通して、福岡・古市場河岸に至る道を探っていきます。

V 荷物の動き

18世紀半ばになると、関東の地場産業が発達し、「地廻り物」として江戸へ多く入ってくるようになり、舟運で運ばれてきた荷物も、関西方面からの「下り物」だけでなく「地廻り物」も多くなっていきました。福岡河岸の船問屋には売上帳や、送り状が多数残されていましたが、そのうち炭・甘藷(さつまいも)・干鰯・塩・糠・灰などの荷物に焦点をあてて紹介していきます。

河岸場へ積み下ろしされる荷物には、江戸(東京)へ川を下って運ばれていく「下り荷物」と、江戸(東京)から川をのぼって運ばれる「上り荷物」の2種類ありましたが、上り荷物では江戸の「奥川船積問屋」が関係していることも分かりました。

VI 河岸場の風景と店(会場：福岡河岸記念館)

福岡河岸には、江戸屋・吉野屋・福田屋の3軒の船問屋を中心に、荒物屋・足袋屋などもありました。対岸にある古市場河岸(川越市)にも、呉服屋・床屋・鍛冶屋・棒屋(車大工)などの多くの店や職人が集まり、養老橋をはさんで2つの河岸場はひとつの大きな町並みとなり、繁栄していました。

現在、古市場河岸の方は、近年の河川改修工事等によって、町並みは大きく変わってしまいましたが、福岡河岸の方は、明治時代に建てられた船問屋の建物が一部残されており、当時の繁栄をしのぼせる貴重な文化遺産となっています。このコーナーについては福岡河岸記念館で展示しますので、現地の雰囲気とあわせて、ぜひご覧下さい。



福岡河岸の沢本屋足袋屋道具

●記念事業(定員は各回50人。参加費無料)

内 容	日 時	講 師
第59回歴史学習講座 「新河岸川舟運～中河岸と河岸道～」	10月19日(日) 午後1時30分～	高木文夫氏 (前上福岡歴史民俗資料館長)
特別展記念講演会 「河岸の成立」	10月26日(日) 午後1時30分～	川名登氏 (千葉経済大学名誉教授)
特別展関連講座① 「福岡河岸における肥料流通」	11月9日(日) 午後1時30分～	酒井智晴氏 (市文化財保護審議会委員)
特別展関連講座② 「昔の荷作りと流通の変化」	11月23日(日) 午後1時30分～	玉井幹司氏 (物流博物館学芸員)

会場は、各回とも上福岡歴史民俗資料館研修室
申込・問い合わせは、上福岡歴史民俗資料館まで

平成20年度

特別展

天王様

—信仰とその民俗—

平成20年11月8日(土)～12月7日(日)

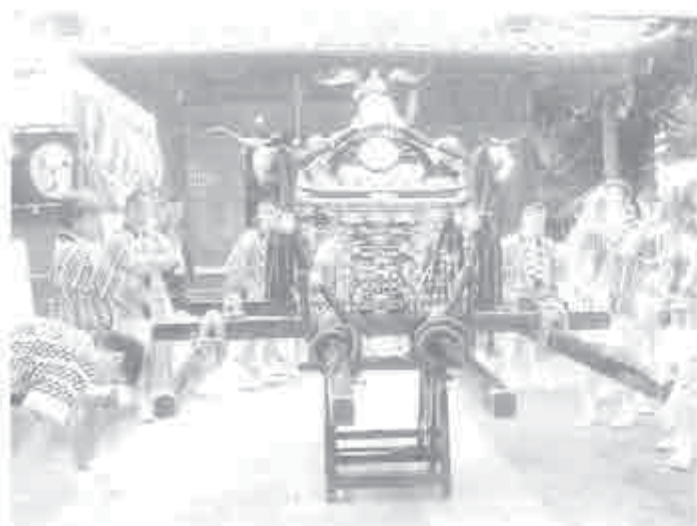
「牛頭天王」あまり聞きなれない名前かもしれませんが、江戸時代まで祇園社と呼ばれていた京都の八坂神社の祭神でした。牛頭天王は、疫病や災厄を除くのに力のある神として信仰され、牛頭天王を祀ることにより様々な災いからのがれようとするために祇園祭が行われました。牛頭天王への信仰と華麗な祇園祭により祇園信仰は全国に伝わりました。それと同時に、各地に祇園社が勧請され、祇園祭も行われるようになりました。神仏習合の思想により江戸時代まで仏教の尊格である牛頭天王は、素戔嗚尊と同体として信仰されてきましたが、明治時代の神仏分離令で牛頭天王は素戔嗚尊となり祇園社も八坂神社となりました。また各地の祇園社も八坂神社や八雲神社等の名に変更されましたが、現在も絶えることなく祇園祭や天王様の祭が京都をはじめ各地で行われています。

ふじみ野市でも神輿やお囃子の演じられる屋台が地域内をまわり、災いを地域から除こうとする「天王様の祭」、また牛頭天王に「チガヤで作った<茅の輪>を身につければ疫病から免れることが出来る」と教えられた者が、そのようにしたところ悪疫を免れることが出来たという故事にちなむ「茅の輪くぐり」の神事を見ることができます。

今回の特別展では、市内各地域で行われている「天王様の祭」や「茅の輪くぐり」にかかわる資料を通して牛頭天王に対する人々の信仰や折りを紹介します。

主な展示資料

資料名	時代	所蔵者等
祇園祭礼につき取り替し一札	文政7年(1824)6月	ふじみ野市教育委員会
八雲神社出興祭典願い	明治5年(1872)6月	新井喜久治氏
社地境内取調帳	明治5年(1872)9月	ふじみ野市教育委員会
大井村郷土誌	大正7年(1918)頃	ふじみ野市立大井郷土資料館
入間郡福岡村郷土誌	大正元年(1912)	ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館
屋台		ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館
茅の輪	現代	駒林八幡神社
ヒトガタ	現代	駒林八幡神社
子ども神輿	現代	大井上組囃子保存会
お囃子道具	現代	大井氷川神社氏子会
地口行灯	現代	ふじみ野市立大井郷土資料館
獅子頭	現代	ふじみ野市立大井郷土資料館
八枝神社掛軸	現代	ふじみ野市立大井郷土資料館
幣串	文化14年(1817)	ふじみ野市立大井郷土資料館
祭半纏	現代	大井上組囃子保存会
楔	昭和9年(1934)	ふじみ野市立大井郷土資料館
大般若経	室町時代	個人蔵



氷川神社 天王様の神輿



川越街道を渡る天王様の屋台



駒林八幡神社の茅の輪

特別展関連事業

No.	日 時	講 座 名・演 題 等	講 師 等
①	11月8日(土) 午後1時～午後4時	歴史教室と文化財めぐり 「天王様」ゆかりの史跡を歩く	本館職員
②	11月16日(日) 午後1時30分～3時30分	特別展記念講演会 「県内の祭礼と天王様」	岡本一雄氏 (埼玉県立民俗と歴史の博物館学芸員)
③	11月23日(日) 午後6時～7時	祭囃子公演会 天王様の祭囃子の実演	大井上組囃子保存会の皆さん

※①②③いずれも事前の申込みが必要です。ただし①は参加費として100円(保険料等)が必要です。

②・③は参加費無料。

申込・問い合わせは大井郷土資料館まで

ふじみ野市の両資料館への資料の寄贈

平成19年10月から平成20年8月まで次の方々より、各種の文化財資料を寄贈していただきましたので、紙上をもって厚くお礼申し上げます。

市立上福岡歴史民俗資料館分

平成19年

- 10月7日 アンカ、アンカ灰
市内 須藤平次郎氏
- 10月10日 古銭
市内 大浦久子氏
- 11月1日 造兵廠の給料袋、貯蓄債権
朝霞市 橋本章氏
- 11月16日 造兵廠監督課門鑑、箱
東京都板橋区 進藤忠男氏
- 12月2日 陸軍兵器本部技術部分室玄関前の写真
(昭和16年)
東京都北区 伊藤政雄氏
- 12月7日 造兵廠川越製造所長神田正憲大佐の写真、弾薬箱ほか
新潟県新潟市 神田一正氏
- 12月21日 たらい、天秤ばかり、軍隊で使用した行李ほか
市内 秋本トヨ氏

平成20年

- 1月24日 盆飾り、銭マス、ところてんつき、手かぎほか
市内 森 喜久江
- 2月7日 駕籠、よろい・かぶと、杵
市内 柳川嗣於氏
- 2月18日 袴、高足膳の木箱(天保8年)ほか
市内 原田晴男氏
- 2月19日 雛人形(市内にあった山崎人形店製)
川越市 神田禮子氏
- 4月13日 消防団のヘルメットと防護服
川越市 松沢敬氏(宮本自治会)
- 4月10日 大東亜戦争割引国庫債券(昭和17年)、
軍事郵便為替金受領書(昭和13年)ほか
市内 島村一夫氏
- 6月11日 煙管・タバコ一式
市内 三尾暁美氏
- 6月29日 メカゴ(竹カゴ実演にて製作)
市内 内田栄持氏
- 8月21日 埼玉県座敷蓐製造組合連合会福岡支部
寄贈の看板(昭和39年)
市内 近藤 正氏

市立大井郷土資料館分

平成19年

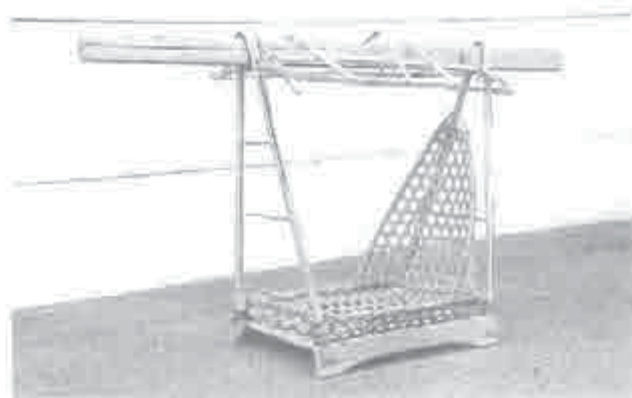
- 11月11日 大正兌換券・日本銀行券ほか
市内 信夫輝雄氏
- 12月20日 軍政部関係・農地貸借関係の文書
市内 市立大井中学校

平成20年

- 1月24日 柳行李 茶箱
市内 菊池光彦氏



柳行李



駕籠